



159

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

事務局：〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
 映画研修センター：〒350-1315 埼玉県狭山市北入曽695-1 TEL.04-2968-4721 FAX.04-2950-7706
 滝沢研修センター：〒377-1611 群馬県吾妻郡滝沢村千塚 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1015

2020 7/1

2面・3面 巡回公演日より／すぎのこ
 演育サブレパトリー「あえいおう」
 ／保育所からのお手紙／劇団員紹介
 4面 日本芸術文化振興会助成事業完
 了・内定報告／JKAIによる補助事業／
 制作日より／絵本紹介 ほか

http://www.suginoko.org/

E-mail: support@suginoko.org

文明の最高の目的は 人間の人格の発展

理事長 大場 隆志

連日、新型コロナウイルスについての報道がされており、不安な日々が続いていると思いますが、皆様におかれましても、できる限り感染予防を徹底していただくとともに、体調に十分気を配り、健康に留意していただければと思います。

「どの子にもナマの舞台の感動を」という思いで、私たちは人形劇を通じて様々な舞台を提供してきたわけですが、今回の新型コロナウイルスの影響によって、特にライブエンターテインメントや人が人に直接行うサービスの自粛要請により、すぎのこ芸術文化振興会としても全国巡回公演を行うことができず、大変厳しい状況となりました。

芸術文化の団体はもちろんですが、他の産業や業界も同じように影響を受け、多くの会社で先が見えない将来への不安を抱えている状態が続いております。

しかし、こんな状況だからこそ、見えてくる現実もあります。

一つは、世界はつながっていることです。テクノロジーによってつながり、ビジネスもグローバルに行われていますが、その中で世界中のひとと物理的にもつながっているということもウイルスの感染

で証明されたと言えます。国と国はそれぞれ分離されているという考えは基本的に間違っている、それを理解すれば、将来のパンデミックに備える力になるのではないのでしょうか。

二つ目は、世の中はこの二十一年で大きく変わったことです。一九一八年にスペイン風邪が流行したとき、世界の人口の約五十パーセントの五億人が感染し、二十五パーセントが発症、死者は五千万人以上と言われています。

今回の新型コロナウイルスも同じように流行している訳ですが、テクノロジー、医療などの進化により、一〇〇年前とはまったく違い、五月二十二日現在で世界の感染者は四八九万人、死者は、三十二万人という状況です。大変な状態であることは間違いないのですが、世の中は大きく変わっているということなんです。さらに一〇〇年後はどうなっているのでしょうか。

一九九七年にアメリカで出版された、ベストセラーとなった「フォース・ターニング」という本は、二〇〇〇年代以降のアメリカがまさに「危機」の時代に入ることから、最近話題となっています。

その根拠となる理論は、社会の

動向が約八十年の周期で繰り返しているというものです。著者らは、その八十年には四つの節目（ターニング）があると見て、それぞれの節目を

【高揚】(High)

【覚醒】(Awakening)

【分解】(Unraveling)

【危機】(Crisis)

と名づけています。これは四季にもなぞらえられ、「危機」の時代は「冬」にあたり、前回は第二次世界大戦の頃になります。

トランプ政権のステイブン・バノン首席戦略官も愛読すると言われる本書では、アメリカ史を辿りながら理論の解説を行い、「第四の節目」（危機）に備えるヒントを提供しています。リーマンショック、アメリカ同時多発テロ、新型コロナウイルスなど危機の連続は、まさに季節が冬の時代であるということを示言しています。

四季における主な理論と、日本における四季を二周期の一六〇年前から遡って考えてみると、以下のようになると思います。

◆高揚（春）＝制度が強まって個人主義が弱まる上昇的な時代。新しい社会秩序が浸透して、古い価値観による制度が崩壊していく時期。

◆覚醒（夏）＝精神面での激しい変化が起こる情熱的な時代。既存の社会秩序が新しい価値観による制度から挑戦を受けるようになる時期。

◆分解（秋）＝個人主義が強化されて制度が弱まる下降的な時代。古い社会秩序は衰退して、新しい価値による制度が植えつけられる時期。

◆危機（冬）＝社会が激動を迎える決定的時代。古い価値観が新しいものと代わり、社会秩序の変化を推進することになる時期。

れる時期。

◆危機（冬）＝社会が激動を迎える決定的時代。古い価値観が新しいものと代わり、社会秩序の変化を推進することになる時期。

一八四五～一八六五（冬）

黒船来航、幕末乱世

一八六五～一八八五（春）

明治維新

一八八五～一九〇五（夏）

日清・日露戦争

一九〇五～一九二五（秋）

韓国併合、第一次世界大戦

一九二五～一九四五（冬）

世界恐慌、第二次世界大戦

一九四五～一九六五（春）

高度経済成長

一九六五～一九八五（夏）

学生運動

一九八五～二〇〇五（秋）

バブル、バブル崩壊

二〇〇五～二〇二五（冬）

リーマンショック、東日本大震災、新型コロナウイルス

今、まさに冬の時代であり、黒船来航、幕末乱世や世界恐慌、第二次世界大戦と同じような危機的な状況と言えます。しかし次は春の時代となり、明治維新や高度経済成長のような上昇的な時代が必ずやってくるはずなんです。この冬の時代から春の時代を経験できる私たちの世代は、危機を乗り越えた分だけ、新しい時代の上昇気運を味わうことができる時期ということになります。

創造する人間は絶えず危機の中に身を置いていなければならぬと言いますが、まさにこの危機が新しい時代につなげていける価値を生むきっかけになると思います。

ので、この危機的な状況に身を置いている時期を無駄にせず、新たな価値の創造に挑戦していきたいと思えます。春になったときに後悔しないようにしたいものです。人生におけるほとんどの後悔は、自分が怠慢でやらなかったことにあります。だからこの機会を無駄にしないように、この状況乗り越え、新しい時代につなげていける価値を創造していきたいと思えます。

新しい価値を生むためには、人格の向上も欠かすことはできません。それはこれからの時代、大胆なビジョンよりも、社会の問題や課題を解決するためのイノベーションが、新たな価値を生み大きな原動力となるからです。

一日あれば、視点が変わる
 一週間あれば、人生が変わる
 一年あれば、事業が変わる
 一年あれば、企業が変わる
 十年あれば、産業が変わる
 三十年あれば、時代が変わる
 百年あれば、文明が変わる

「文明の最高の目的は人間の人格の発展である」とフランスの解剖生物学者であるアレクシス・カレルは言っている。

今、全世界を席巻している新型コロナウイルス旋風を目の当たりに、このカレルの言葉が思い出されます。その未曾有の危機に立ち向かいながら、人格の発展に努めることで、新しい時代につなげていける文明を築くことができるのだと思います。



巡回公演だより

はだかの王様 班

星野 翼

去年から上演が始まりました「はだかの王様」は、歴史は古く、1335年に原作が発表され、1837年にクリスチャン・アンデルセンが翻案してから、様々なところで愛されているお話です。

王様になって10周年の記念パレードに何を着ていけばいいのか悩む王様、そこに仕立て屋のローグが現れ、おバカな者には見えない服だと言って用意するが、誰にも

その服が見えない！それでもおバカだと思われたくない大人たちは見えている振りをするが、正直な子どもは「王様ははだかだ」と言っ

て笑い、ローグに騙されていることに気付く。

そんな誰でも知っている「はだかの王様」というお話。子どもの純粹な気持ちと大人になって身についた、他人を意識して、つい、

つい出してしまいう見栄。登場人物たちは、他人を意識するあまりに振り回されていきます。

この面白くて風刺が効いているお話を崩すことなく、子どもたち

に楽しんでもら

えるために日々

稽古を続けてい

ます。昔から愛

されている「は

だかの王様」と

いうお話、ぜひ

子どもたちに伝

えていきたい。

そして子どもた

ちが少しでもこ

のお話に興味を

持つてくれたら

幸いです。これ

からも私たち

「はだかの王様

」班を、どうか

よろしく願ひい

たします。



このつぎなあとに 班

野見山 大輔

大変な時代になりました。自粛で自宅待機しながら思うのは、やっぱり人形劇のこと。

早く子どもたちにナマの舞台を届けたい。すぐに以前の通りには

いかないかもしれない。オンライン

こうした気付きもそうだが、コ

ロナのおかげで学べたこともたくさんある。自分を見つめ直し、多くのことを深く考えるきっかけとなった。この時間は貴重だ。

次にお会いする時は、さらに磨きをかけ成長した人形劇を届けた

いと、強く願っております。

おむすびころりん 班

和田 宣子

皆さんは「おむすび」と聞いてどんなおむすびを思い浮かべますか？私は母がいつも作ってくれた、

白いご飯で握られ海苔が巻かれた

ものを思い出します。

すっかりした塩味で、

おかずなしでも幾つも

食べられました。さて、

今回の新作は「おむす

びころりん」です。

いつも思いやりの気

持ちを持って生きてき

たおじいさんとおばあ

さん。山へ仕事に出か

けるおじいさんのため

に、毎日おむすびを握

るおばあさん。そのお

むすびはおじいさんの

健康と安全を願ひ、愛

情一杯に握られたもの

です。ある日、そのお

むすびが、まるでおじ

いさんをねずみの世界

へ導くかのように、コ

ロコロと転

がっていくのです。

おばあさんの握ったおいしいお

むすびを食べると、みんな元気に

なり力も湧いてきて優しくなりま

す。私もそんなおむすびを握れる

ようになりたいなと、最近真剣に



ン等、新たな形を模索する必要があるかもしれない。それでもやっぱり舞台はナマがいい。

当たり前に巡回ができていた日々が、本当にありがたかったと、今痛感する。また巡回ができるなら、一つ一つ大切に演じたい。

三まいのおふだ 班

七海 美流歌

今はこの作品に出逢えたこと、一緒にやる仲間、観劇してくれる方々に感謝しながら、早く観劇後の「おむすび食べたーい」の子どもの声が開けることを楽しみにしています。

麗かな春の季節がまばたきの如くあつという間に通り過ぎ、夏の香りが鼻をくすぐり始めているこの頃。私がこの「三まいのおふだ」という作品に俳優としてかわって三度目の夏が来た。

今年には新型コロナウイルスで大変だ。仕事もなければ、自宅待機でなかなか稽古も進まず、ただひたすらこの先の不安と闘っていた。そんな中でも、この作品に何かの縁を感じてしまう自分がいる。もう三年目。

最初にかかわった一昨年は二人で、翌年である去年は三人で、そして今年はまだ二人でと、構成人



員が変わっていった。同様に、毎回違う配役でいろんな角度から物語を見つめ、たくさん課題を貰ってきた。

一昨年は小坊主、去年は山姥、今年は山姥和尚の二役。劇の中には二役の掛け合いのシーンがある。つまり、一人で二役として会話をしなければいけないということだ。正直、負担にならないと言えは嘘になるし、一人で話すようなものだからせりふの間を取るの

がとても難しい。山姥和尚のキャラクターの切り替えがしっかりできるのか、心配にもなる。

でも、何より、一番思っているのは、果たして去年の自分を越えられるかどうかである。

年度始めに作品と配役が決まる時、私がいつも考えているのは、歴代を超える人形劇にしたいということだ。だから今年はプレッシャーを感じざるにはられない。去年の自分のベストを尽くした山姥。それを乗り越えなければなら

ない。その上、和尚という役回り、不安や心配が後を絶たないが、

北仙道保育所（島根県益田市）からのお手紙

小鳥がさえずり、野山の草木が芽吹き、春の訪れを感じる季節となりました。皆様、巡回公演にあちこち行かれてご活躍のことと思います。

去年は「三まいのおふだ」の人形劇の公演に来園くださり、ありがとうございました。やまばと小僧の掛け合いなど、楽しんで見させていただきました。子どもたちは、二回目の人形劇を観劇することができ、改めて、貴重な経験ができました。年長児は、人形劇を見てから、「すぎのこごっこ」に発展し、人形や舞台を作り、遊びを楽しんでいました。年中、年少、小さい子たちに公演し、発表会でもお披露目しました。

新型コロナウイルスなど心配なことが多いですが、お体にお気をつけくださいませ。毎日が幸せで楽しく過ごせますように、ご壮健に益々ご活躍されますように、お祈りしております。

劇団 すぎのこ「三まいのおふだ」皆様
令和2年3月23日

島根県益田市北仙道保育所
所長 山崎 静香



実はそれと同じくらいに胸が躍る自分がある。どんな人形劇に仕上がるのか、またどんな発見ができるのか、どんな現場が待っているのかなどなど、楽しみで仕方がないのだ。人形劇を心待ちにしてくれる子どもたちや先生方や親御さん。今年も楽しんで貰いたくてドキドキする気持ちを抑えることができない。

だからこそ私は、その複雑な感情を全て抱いて、そして、この人形劇に携わる

方々の想いもしっかり抱えて、この先の旅を頑張っていきたいと願う。

劇団員紹介



石山 和佳

再入団いたしました。人形劇を通して、子どもたちや先生方が心に感じるものがあつたらいいな、と思います。

大人も子どもも、人形たちと一緒に楽しい時間を過ごしていただけたら嬉しいです。

すぎのこ 演育サブレパトリー

「あえいおっ」

今年度から始まった、すぎのこ

演育サブレパトリー「あえいおっ」の演出を担当しました。

演育の基盤となる、

「見る力」人や状況や大切なものを

を見て理解する力

「聞く力」自分とはちがう人や知らないことを聞いて知る力

「感じる力」心が素直に反応する力

「話す力」心にあるものを言葉にする力

「伝える力」自分の表現したものが相手に伝えられる力

（公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会 理事長 大場隆志「演

賛助会員を募集しています！

賛助会は、すぎのこの理念・目的に賛同する個人や団体の方々に、当財団の活動を側面から支援していただくものです。

1. 賛助会に関する基本事項に関しては、定款第45条によるものとする。
2. 賛助会は、当法人の目的に賛同し、事業や業務を支援する個人・団体賛助会員からなりその内容は次のとおりとする。
- (1) 賛助会費を納める「会費制賛助会員」

個人	年額	3,000円 以上
団体	年額	10,000円 以上
- (2) 知識、技能、労力を提供する「技能制賛助会員」

個人	年間	3日間以上
団体	年間	5日間以上
3. 賛助会員になろうとする者は、申し込み用紙に必要事項記入のうえ、会費（技能提供予定書）を添えて当法人事務局に提出し理事長の承認を受けなければならぬ。
4. 納入された会費は管理運営費並びに賛助会運営費に使用する。
5. 賛助会員が退会しようとする場合、所定の退会届に必要事項記入のうえ、当法人事務局に届け出る。
6. 会費制賛助会員が二年以上会費を滞納した場合、技能制賛助会員が二年以上知識、技能、労力の提供がなかった場合は、自然退会として扱う。
7. 理事長は、賛助会員の当法人への理解や支援、賛助会員同志の意志の疎通や親睦を図るため、会員の中から若干名の世話人を選び、世話人の中から代表世話人を選任し世話人会を設置する事が出来る。
8. 世話人会が設置された場合、世話人は代表世話人の下に、前4項の目的を達成するための事業や業務を、理事長の指導のもとに企画し実施する事が出来る。
9. 賛助会員は、この法人が刊行する図書及出版物等の優先的配布、その他この法人の行う行事に関して優先的な取り扱いを受ける事が出来る。
10. 賛助会員が、会員として相応しくない行為があると認められる時は、世話人会及び理事会の、各々3分の2以上の議決により除名する事が出来る。
11. 前項の理由により除名する場合、理事長は、予め本人からの文書または口頭での意思表示を求め、理事会において最終判断をする。
12. 納入された会費及び提供された技能はいかなる理由があろうとも返還はしない。
13. この賛助会規程を改廃しようとする場合、理事会の議決を経なければならない。



（小杉 正繁）

育とは「より拔粹」を踏まえて、ふだん私たちがやっている基礎的な発声練習、歌を取り入れてわかりやすく進めていく作品です。少し難しいかもしれませんが、力まず、優しく、笑顔で、口を大きくあけて、自分の気持ちを素直に言葉として発することのお手伝いができたら幸いです。

独立行政法人 日本芸術文化振興会 助成事業



芸術文化振興基金
助成事業

助成事業完了のご報告



石川県	富山県	新潟県	神奈川県	東京都	埼玉県	栃木県	福島県	山形県	秋田県	宮城県	岩手県	青森県	都道府県	日数	回数
7	7	29	1	1	2	2	11	8	1	14	23	21			
11	13	40	1	2	2	2	22	13	2	25	44	43			

日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金による助成事業、平成31年度「はだかの王様」全国巡回公演を令和2年2月に完了いたしました。都道府県ごとの公演日数と公演回数をお知らせいたします。

助成事業内定のご報告

昨年度に続き、今年度の新作「おむすびころりん」全国巡回公演が、

り、26都府県を巡回させていただきます。ご観劇いただいた皆さま、そして日本芸術文化振興会のご支援に厚く御礼申し上げます。



公益財団法人JKAによるオートレースの補助事業に、「心を育てる演育ワークショップ」が採択されました。この事業はすぎのこが行っている、コミュニケーション力や表現力を演劇の手法を用いて育成す

「演育」が
オートレース
補助事業に
採択決まる

日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金による助成事業に内定されました。

近年、家庭環境や親世代の働き方が変化し、外食や中食の割合が多くなり、家庭での調理時間が減少しています。また、朝食を食べない子どもも増加している等、子どもたちの食文化も変化しています。現代においては、効率化が優先されることも大切であると思いつつ、同時に失いたくない、食卓の温かさや人とのつながりを表現できたらと思う、この作品を製作いたしました。

「おむすびころりん」は昔話の中でもなじみが深く、愛され続けている作品です。この作品には題名の通り、「おむすび」がたくさん登場します。想いがつまった手作りの「おむすび」は、昔ながらの日本の食文化であると共に、人の温かさの象徴として描かれます。この作品が、一人でも多くの皆さまにおいしく味わっていただけることを願っております。

制作

すっかり暑くなり、夏を迎えたことを肌で感じられる時期になってきました。皆さんはいかがお過ごしでしょうか？

今年はコロナウイルスの影響で、春先の行楽シーズンに外出ができず、例年のような季節の移り変わりが感じづらかったような気がしております。さらに、幼稚園や保育園の先生方は、入園時期とも重なり非常に多忙な日々になったことと思います。

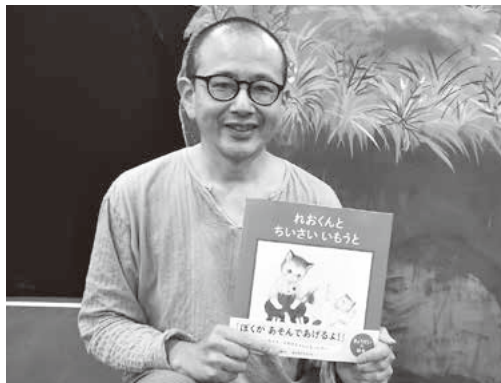
我々もいつもであれば5月の連

絵本紹介

すぎのこは日本全国にナマの人形劇を届け、いつも子どもたちに元気をもたらしています。俳優野見山大輔が、その恩返しに綴った物語が、絵本になりました。ぜひご覧ください。

『れおくとちいさいもうと』

作・野見山大輔 絵・朝比奈かおる
学研プラス／1400円＋税



休明けから巡回公演が始まるのですが、今年は、5月は公演が無く、毎年春と夏に参加をしていた人形劇のイベントも中止となり、すぎのこととしての主たる活動が満足に行えませんでした。そんな中、我々は新たな試みに挑戦しました。YouTubeやインスタグラム等を利用した、リアルタイムで楽しんでいただけのコンテンツや、度々紹介させていただいている「演育」関連のDVD撮影など、俳優陣とも協力して行いました。



お届けできるように頑張っています。 (太田 令)

各種SNSを始めました

イベント情報や公演の写真などをお届けしています。

チャンネル登録&フォロー、お待ちしております。

Instagram劇団：@puppet_suginoko

巡回班：@suginoko_junkai

YouTube <https://www.youtube.com/channel/UCj3Ra-N-A2o1vJk4nZkaVRw>

活動記録(令和2年5月～6月)

5/14	第18回定例理事会開催 於・当公益財団事務所
5/29	第9回定例評議員会開催 於・当公益財団事務所
6/30	令和元年度事業報告及び収支決算報告を内閣府に提出

る「演育」の取り組みを全国に広げようというものです。この活動を通じて、演育マスコットキャラクターの人形製作や「演育」冊子の作成、そして販売用教材としてCDとDVDを製作させていただきました。

海外では、学校教育の中にこのような演劇の手法を用いた教育の

カリキュラムが存在し、学力では測れない非認知能力を育てる一端を担っています。日本ではまだなじみのない分野ではありますが、すぎのこの「演育」で分かりやすく簡単に、上演先でも取り入れることができるような内容を紹介していきたいと思っておりますので、よろしく願いたします。